

# 「家がいいね」 第175号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

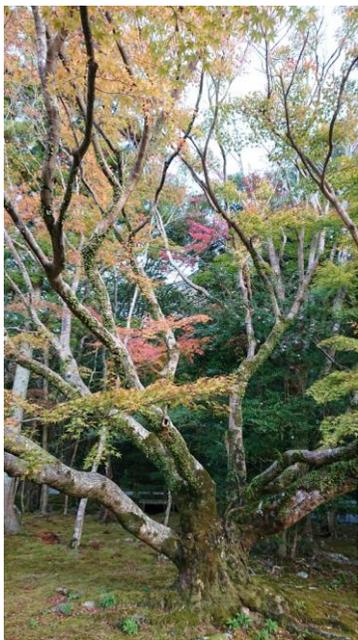
2018.12.10



今年も季節が遅れています。十一月末の散策で内宮の御苑に行きました。モミジも緑から赤へとまだ模様替えの途中でした。緑も濃かったですが、葉が落ち風を通すようになると、様相も変わります。冬が本番になると、今年の陽気に慣れた身体にはこたえるでしょう。気を張ってお過ごしください。

「助けて」と言えるのが、本当の社会では

午前の外来で気になることがあります。仕事がうまく続かず、引きこもりになった本人や家族からの相談が増えています。働けないのを自分だけの責任と思ひ込み悩まれています。「自己責任」というもってもらいたい言葉の前で、この方々は身を縮めているようです。しかし話を聴くと、雇う側の無責任さが目に余ります。働く人を生産性だけで選別する派遣制度を進め、解雇を「雇いどめ」と平然と言い換える社会の変化に、啞然とします。弱い立場の者、小さな声の者を守るのが、基本的人権と政治の役割と習いました。だが金と権力を自由に使う強圧的な政治が、反対意見を蹴散らしています。間違いを認めず不寛容な風潮が、苦しい空気を送ってきます。自己責任論も恫喝です。「助けて」ということから繋がりを求めましょう。



カルテからのつぶやき 5

「人生100歳時代」と言われます。今年の敬老の日、住民基本台帳で100歳以上の人は、全国で7万人に迫る勢いだそうです。千人を超えたのは昭和56年。今や私の担当患者さんでも最高齢は106歳、90歳以上が20名ほどおられます。その中で100歳での自宅の看取りが叶った例です。診断書の死因を老衰（＝自然死）と書く事も叶いました。前はできていたことができなくなること、日々食べられなくなること家族が了解しました。今までの体験で、入院では解決しないことにも思い至りました。幸いにも最期の日々は数日以上ありました。急がなくて良かったのです。家族が本人の周囲で賑やかに食事したり、思い出す話に皆で泣き笑う日常もあったようです。

生きて来たように最期を終えられるのは人生を肯定すること、素晴らしかったといえることです。見送る世代にとっても「わたしたちも生まれてきて良かった」と思える実感につながるのではないのでしょうか。在宅ホスピスケアは文化なのですね。そう思うと伊勢にはまだまだ在宅ケアが足りません。「迷惑をかけるけど、せめて自宅で死にたい」と言い出しやすい地域社会を作りたいと思います。

休診日のお知らせ

年末年始の休業期間です。

12月27日(木)

1月3日(木)

長期間になります。早めの相談や依頼を下さい。期間中も在宅患者さんの変化には対応いたします。



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105  
メール [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可